

2024年度 定期総会・記念講演会報告



2024年度の定期総会が6月29日、大阪市北区の龍谷大学大阪梅田キャンパスで開かれました。第1部の記念講演会は、テレビのコメンテーターとしてもおなじみの元AERA編集長のジャーナリスト、浜田敬子さんが登場。会員以外からの関心も高く、ほぼ満席の会場とオンランを合わせ約100人が浜田さんの熱のこもった話に聴き入りました。

浜田さんの講演は「男性中心社会の改革に向けて市民社会に求められるもの」がテーマ。自身の体験や、ジェンダーギャップが極めて小さい北欧・アイスランドの取材などから日本の現状を批判し、意思決定の場へのクオータ制（性別などの基準で一定の比率で人数を割り当てる制度）導入など、社会システムや意識の変革を訴えました。



浜田敬子さん

第2部の定期総会はテーブル6つを7人ずつで囲み、オンラインを含め約60人が参加しました。23年度事業報告案・決算案、24年度事業計画案・予算案などが承認されました。

23年度決算の赤字は664万円、24年度予算も865万円の赤字を見込んでいます。2年度連続の赤字について、事務局から「人件費の増加と企業からの委託事業の終了、会費・寄付・購読料収入の伸び悩みなどが要因。24年度予算も今のところ大きな増収見込みはないが、収支改善に頑張りたい」という説明がありました。

グループ討議の後の全体討議で意見が多かったのが、若い人材の育成と確保。「会費を安く設定し、学生時から協会に関わり合いを持つ仕組みを」と学生会員制度の創設が追加提案され、議決されました。



懐かしい顔も集い、大いに盛り上がった交流会



キャンパス・ニュース



「キャンパス・ニュース」は市民活動スクエアCANVAS谷町と大阪ボランティア協会の「今日」をお届けするマガジンです！

CANVAS=Civic ANd Voluntary Action Square

【CONTENTS】

- 1 社会課題の解決に向き合うNPOインタビュー
 - 2,3 協会のチーム「ことはじめ物語」
 - 4 2024年度定期総会・記念講演会、「はじめの一步」ハンドブック
- ※協力感謝

TOPICS

社会課題の解決に向き合うNPOインタビュー

ちやいんどネット大阪 玉置 章子さん

40年間積み上げてきた同和保育・人権保育の取り組みが、「すべての人権」という視点で障害児共生や多文化共生、男女共生へと広がってきた中、2009年NPO法人として活動を始めました。

子どもの目線に立った人権尊重の保育を進めるため研究・研修・情報発信の3本柱で事業を進めています。研修事業の一つである人権保育講座は、コロナ禍前より受講者数が減ったものの23年には46講座3427人が受講。中でも「障害のある子」「配慮が必要な子」への支援のあり方に悩む保育現場に応え、研究会や研修で障害共生の視点をもち内容を深めています。一人一人の行動特性を理解した上で個々の発

達を援助し、友達と共に育ちあう経験を通して就学以降のユニバーサル教育につなげていきたいと考えています。

乳幼児期の保育・教育を向上させる条件整備が全く遅れているわが国ですが、76年ぶりに保育士の配置基準の見直しが始まりました。「子どもの人権尊重」の保育を具体的に提案できるよう、今後も事業を創造していきたいと思っています。

社会課題の解決に向き合い、活動する団体にインタビューをしました。より詳しい内容を協会ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。 →



実技を全とした「遊び講座」

『長期療養の子どもと家族を応援したい人のための「はじめの一步」ハンドブック』が完成！

～7月15日にはハンドブックのお披露目も兼ねて、チャリティイベント@箕面市立かやの広場も開催しました～



ハンドブックのダウンロードはこちら →



このハンドブックは、今日本国内に12万人以上いるといわれている長期療養の子どもや医療的ケアが必要な子たちのことを、ひとりでも多くの人に知ってほしい、そしてできるところから関わってほしいという思いで「タケダ・NPOサポートプログラム」を活用して作成しました。

長期療養の子どもや家族・きょうだいに关わる活動をする9団体

を紹介していますので、このような団体で活動したい、応援したいと考えている方に、ぜひともご紹介ください！ また、冊子がほしいという方は、協会までお問合せください。



チャリティイベントで団体の皆さんと

グリーンサポート・リヴ 佐藤 まどかさん

1992年、自分の子育てについて語る場を作りたいと思い、スタートしました。今では個別相談やグループでの「語る会」を通して、子育て相談や遺族相談、女性支援を行っています。

活動開始から30年以上経過し、社会は少し変わったのかなと思っていました。しかし子育てや女性の悩みは変化していないと感じることが多くあります。自死遺族支援や自殺予防にも同じことが言えますが、社会や地域、家庭に“人”はいるけれど分かってもらえないのは、とてもつらいものです。だから誰かと話して「同じ気持ち」とか「あるよね」と言うだけで、少し楽になります。

一方で「同じ体験をした人にしか分からない」と思う人もいます。それでも、分からないから分かってほしいと寄り添うことで、気持ちが楽になったと話していただくこともありまし

た。大切なのは、ズカズカとその人に入り込むのではなく、葛藤や悩みを知っておく一人になること。そしてそのまましこそが、ご自身で歩いていく力になるのではないかと思います。今後もその場限りでなく、継続したつながりができる相談をしていきたいです。



遠方からの参加も可能なオンラインスペース

キャンパス・ニュース Vol.68(2024年8・9月号)

発行 社会福祉法人 大阪ボランティア協会 <https://osakavol.org/>
〒540-0012 大阪市中央区谷町2丁目2-20 2F 市民活動スクエア「CANVAS谷町」
代表電話 06-6809-4901 出版部 06-6809-4903 共通FAX 06-6809-4902

2024.7.23

ボランティアスタイルチーム

ボランティアスタイルは、2007年度に勤労者向けプログラムの検討を始めたのが原点です。モデルとなったのは、米国の団体「ニューヨークケアーズ」などが実施している単発ボランティア。09年度の試行を経て翌年から本格的にチームとして取り組んでいます。ライフスタイルの中に「ボランティア」が自然と取り入れられるようになってほしいという思いがチーム名の由来です。

キャッチフレーズは「働きざかりのみなさんに休日の新しい過ごし方」から、現在は「スキマ時間でボランテ

ィア」になっていますが、初めてでもボランティア活動に参加しやすいように「単発」「リーダーが同行」「現場で活動」というコンセプトは変わりません。チームメンバーは24年7月現在で10人。定例プログラムの運営と開発、現場でのナビゲート、SNSを活用した広報などを行っています。

23年度は、5プログラムを年間30回、のべ131人に提供しました。24年度は特にインターンの学生を多く受け入れ、彼らが社会人になっても少しでもボランティアに関わってもらえるよう、一生懸命、楽しく活動したいと思っています。



協会のチームことはじめ物語

今でこそすっかりおなじみとなっている4つのチーム。どうやって生まれてきたのか、今と同じところや違うところ等々、「チームのはじめて物語」をテーマにうかがいました。

ボランティア・市民活動ライブラリーは2003年12月、「ボランティア・市民活動の歴史的資料の散逸を防ぐこと」を目的にオープンし、同時に運営チーム「ライブラリーチーム」も発足しました。資料収集を進め、現代の市民活動を記録し、市民活動の研究基盤となることを目指したのがチームのスタートです。

ボランティア・市民活動は、社会問題に向き合い、その解決のため日々、最前線の現場で活動しています。でも目の前の活動に注力するあまり、その記録・保存の仕組みは十分に整っていません。そ

こで24年度は、従来からの取り組みで23年度に実施できなかった、「設立〇周年」を迎えた団体の周年誌収集の取り組みについて、協会ホームページのライブラリーのサイトで寄贈の呼びかけを行いたいと考えています。

ファンレイジングとしては、22年度に寄贈いただいた古本約430冊をCANVAS谷町に並べ、どんな本も1冊50円で販売する「チャリティ古本市」を開催中です。その手頃さから10,000円を超える売り上げになっています。25年3月末まで続けるので、ぜひ古本を手にとってみてください。



ボランティア・市民活動ライブラリー運営チーム



CANVAS谷町のデザインチーム「たにまちっく」



皆さんはCANVAS谷町にあるカフェコーナーをご存じですか？ 訪れた人がほっと一息できるようにコーヒーや紅茶、ちょっとしたお菓子などが置かれています。でも注目してほしいのは、物が置かれたこのワゴンなのです。

大阪ボランティア協会がCANVAS谷町に引っ越す少し前（2012年）、アソシエーター有志が集まり準備を始めました。「新拠点は誰もが気軽に集えて、自由に交流や情報交換ができる場にしたい」。その願いから生まれたチームが「たにまちっく」です。

活動の第一歩がカフェコーナーブ

くりで、その象徴となるワゴンの設計から始めました。誰もが利用しやすいように大きさ、高さ、手を伸ばした時の角度を考慮し、色合いも部屋のトーンに合わせました。「カフェを中心にボランティア同士の交流が深まり、活動も大きく広がっていけば」という思いを込めた、他にはない特注のワゴンが出来上がりました。

今後、ワゴンを使ってボランティアがリアルカフェを運営する計画があり、ワクワクします。新たな未来へ、ワゴンの活躍の場が広がりそうです。



すぐに動く災害ボランティアチーム「SUG」

東日本大震災後の2014年、関西での大規模災害を想定して協会に災害支援委員会が発足しました。ほぼ同時に、災害時に機動的に動き、災害ボランティアコーディネーションを支援する専門人材を育てるための組織として後の「SUG」が構想され、災害支援委員会のワーキンググループとして誕生しました。

発足直後から「大阪（関西）で災害が発生した時にS（すぐに）U（動く）G（グループ）」と仮称。18年のチーム化に際して新名称を募集したのですが、結局「SUG」で落ち着きました。当初は災害支援現場で活躍するボランティアへの声掛けなど、他薦、自薦でメンバーを募集。ただ20年以降はコロナ禍に見舞われた

り、事務局体制に余裕がない時期があったりで、活動やメンバー募集があまり活発でない状況が続いています。

今年1月1日に能登半島地震が発生しました。SUGメンバーは災害支援委員会と協会アソシエーター、ボランティアと一緒に現地に入り、支援活動を続けています。「大阪、関西で災害があれば、すぐ」と言っていますが、今後も行ける地域はどこにでも飛んで行って、支援をしていきたいと考えています。



能登半島地震の被災地で倒壊した塀を撤去→

協会の委員会・チーム一覧はこちら→



協力 感謝

五十音順敬称略（2024年4月1日～6月30日）

※一部の方は、次号に掲載させていただく場合があります。

■個人会員・個人賛助会員

累計額 1,487,800円（予算達成率59.5%）

石原 光	磯野 太郎	青山 織衣	赤尾 健治	赤尾麻美子	秋岡 安	秋田 正人
岩崎 英眞	岩崎美枝子	阿部 太極	阿部 圭宏	安東由紀子	池田千香子	池田 政則
梅田 有紀	浦田 和久	池田 幸也	石井 大輔	石井祐理子	石川久仁子	石倉 成美
大石 真純	大熊由紀子	磯野 奈緒	磯辺 康子	市居 利絵	井上小太郎	井上美樹子
岡村 豊子	岡本紘太郎	岩本 為雄	上林 康典	植松 洸佑	浮田 雅代	梅田 純平
小川 智士	尾崎 力	江淵 桂子	榎本多美子	江本 雅朗	遠藤 恵子	大井智香子
金澤あつ子	金子 芳恵	大西 雅裕	大野 智代	岡 昌史	岡田 憲治	岡村こず恵
川中 大輔	岸下 典子	岡本 繁樹	岡本 伸子	岡本 仁宏	岡本 友二	小河 光治
黒田 進	黒田 芳子	小野由美子	梶 博	鹿住 貴之	片野 緑	勝部 麗子
小尾 隆一	坂口美知枝	亀田 真実	加山 弾	河合 将生	川井田正志	川口 謙造
左藤 章	佐藤 陽	楠 正吉	工藤 宏司	久保 秀美	栗原 彬	黒瀬友佳子
佐野 侑子	佐脇 広平	古結 洋子	越村真己子	小谷 広幸	児玉美恵子	小林 智絵
須貝 昭子	杉本亜希子	坂本 啓子	坂本 治也	崎本 優子	桜井 政成	笹倉 香奈
高橋 弘子	高村 和雄	佐藤宣三郎	佐藤 匠	佐藤 豊子	佐藤 正隆	里見 公利
武久 堅	巽 澄子	三田 真也	塩川 恵造	篠原登美子	志場 久起	神野 武美
田森 洋樹	千葉 武	鈴木 暁子	鈴木まり子	角谷 嘉則	高田真砂子	高橋 聡子
名賀 知子	中居 初憲	瀧本 宏子	田口 真義	田窪 圭子	武 直樹	竹内 瞳
中西 茂	中西怜央奈	田中 勉	田中美智子	谷垣 哲也	谷川 毅	谷本 寛治
中森 俊	中山 重幸	土畑 伸一	筒井百合子	寺島 正祐	遠矢家永子	名賀 亨
西原 弘将	西村 健	永井 美佳	中尾 博	永岡 正己	仲川 一昭	永田 英夫
濱本 信樹	林 由以子	中野伊津子	中野 種次	長橋 淳美	中橋 克人	中村 健治
東中 健悟	東牧 陽子	西 朗	西田 逸夫	西田 稔仁	西谷 美輝	西野 稔
廣田 浩一	福満 奈都	新田 泰司	根岸 美穂	野口 純子	服部久美子	濱 真理
古川 明郎	古田 拓也	早瀬 昇	原田 京子	原田 英男	榛木 恵子	春永 季子
牧里 每治	正木 敦士	疋田 恵子	日高 清司	兵動 健志	平山 一輝	広瀬 雄樹
松本 雄二	三浦久美子	藤田 淑雄	藤野 幸	藤原 正規	藤原 俊彦	藤原麻佐代
三宅 克英	明賀 英樹	北條 保	細溝美和子	細溝 良和	前 直樹	牧口 明
森下 和紀	森田 正紀	増田 宏幸	松浦さと子	松尾 林	松島 宏樹	松村 環
山内 庸行	山縣 文治	三木裕美子	水谷 綾	南 多恵子	南浦実永子	三宅 彰
山田 泰久	山田 裕子	椋木 美緒	村岡 正司	妻鹿ふみ子	森 信介	森 美弥
吉村 悦子		森野 俊彦	森本 聡	守本 友美	八尾 高伸	柳瀬真佐子
		山口 洋典	山口百合子	山科 圭子	山田 剛	山田 美樹
		山根川百香	山本 晋司	山本 知恵	山本 幸夫	横山 泰三

◎上記のみさんのほか、匿名希望45名の方に会費をいただきました。ありがとうございました。

■企業・団体賛助会費など 累計額 3,300,000円（予算達成率41.2%）

近畿労働金庫（一財）皓養社

武田薬品工業(株)

◎ご支援いただきありがとうございました。

■寄 付

●一般寄付 累計額 1,008,923円 (予算達成率45.9%)

赤尾 健治	赤尾麻美子	池田 政則	石井 勲	石川久仁子	石倉 成美	石原 光
井上美樹子	岩本 為雄	上林 康典	岡村こず恵	岡本 誠史	岡本 友二	小河 光治
小川 智士	小野由美子	鹿住 貴之	亀田 真実	河合 将生	川井田正志	黒瀬友佳子
黒田 進	小谷 広幸	坂口美知枝	崎本 優子	佐藤 匠	佐藤 豊子	志場 久起
柴谷 大樹	鈴木まり子	高田真砂子	田窪 圭子	田中美智子	土畑 伸一	名賀 亨
中尾 博	永岡 正己	永田 英夫	長橋 淳美	西田 稔仁	西谷 美輝	根岸 美穂
早瀬 昇	原田 英男	疋田 恵子	日高 清司	福満 奈都	藤澤 晴彦	藤田 淑雄
古川 明郎	文具チャリティ募金		星 千春	細溝 良和	本郷 順子	牧口 明
松尾 林	松島 宏樹	窓口チャリティ募金		三木裕美子	南浦実永子	三宅 彰
妻鹿ふみ子	森田 正紀	森野 俊彦	山内 庸行	山元 倫子	山本 幸夫	脇坂加代子

◎上記のみなさんのほか、匿名希望など10名の方にご寄付をいただきました。ありがとうございました。

●災害支援寄付 累計額 1,363,534円 (予算達成率170.4%)

※「令和6年能登半島地震支援寄付」、「災害時初動対応準備寄付」を含む

あいのりバスみんなDEノモウゼ募金	赤尾 健治	赤尾麻美子	秋岡 安	阿部 太極		
池田千香子	井上美樹子	岩崎 英真	上野 章一	上野 好子	植松 洸佑	江口 愛
榎本多美子	岡本 友二	梶 博	川井田正志	楠 正吉	古結 洋子	小谷 広幸
児玉美恵子	紺屋 仁志	坂本 啓子	佐々木直彰	里見 公利	芝原 浩美	神野 武美
鈴木 賢治	千田 裕	Daigasグループ小さな灯運動	巽 澄子	谷川 毅		千葉 武
遠矢家永子	永井 美佳	中井由紀子	中野伊津子	なにわ語り部の会		能登半島地
震災支援チャリティ募金	野口 純子	服部久美子	早瀬 昇	北條 保		増田 宏幸
三宅 克英	明賀 英樹	森本 聡	山田 美樹	(公助)山本能楽堂		

◎上記のみなさんのほか、匿名希望など9名の方にご寄付をいただきました。ありがとうございました。

●事業指定寄付 累計額 405,490円 (予算達成率15.3%)

◆KVネット応援寄付

川井田正志 塩川 恵造 ◎ありがとうございました。

◆「ウォロ発行サポーター」寄付

阿部 太極 磯辺 康子 片野 緑 川井田正志 小林 智絵 塩川 恵造
神野 武美 早瀬 昇 増田 宏幸 村岡 正司 百瀬真友美 山田 泰久

◎ありがとうございました。

◆“裁判員ACT”活動支援

金子 芳恵 神野 武美 早瀬 昇 細溝美和子 森野 俊彦

◎上記のみなさんのほか、匿名希望など1名の方にご寄付をいただきました。ありがとうございました。

◆市民活動の歴史的資料収集整備寄付

川井田 正志 小林 智絵 西野 稔
ボランティア・市民活動ライブラリーチーム「チャリティ古本」

◎ありがとうございました。

■新規個人会員・個人賛助会員

大野 智代 岡田 憲治 岡本 紘太郎 勝部 麗子 栗木 梨衣 三田 真也 豊田 基嗣
西 朗 村木 真紀

◎上記のみなさんのほか、匿名希望など4名の方にご入会いただきました。ありがとうございました。